

令和2年度修了式(令和3年3月23日)「式辞」

校長 下雅意 一之

コロナ禍にあって今日こうして一堂に会して令和2年度修了式ができましたことはなによりも喜びです。新型コロナ感染拡大防止のために緊急事態宣言のもと臨時休業により学校のはじまりが遅れました。学校行事には中止や変更が続きました。社会では、自粛や自制、命を守る行動が求められてきました。このような状況にあっても、本校生徒の皆さん一人一人が、健康管理に努め、感染者一人もなく本年度の学業を納め、今日を元気に迎えてくれたことが最も素晴らしいことに思えます。校長からの皆さんへの評価は100点満点です。

さて、みなさんは「持続可能な社会を目指して」ということばを耳にしたことがありますか？世界の貧困に終止符をうち持続可能な未来を追求しようと、2015年国連総会で「2030アジェンダ」として採択されました。世界を変える17の目標がSDGs(エスディージーズ)といわれ2016年から2030年の15年間で、その達成をめざしています。

(例えば、貧困をなくす・飢餓を0(ゼロ)に・健康と福祉の充実・教育の普及・ジェンダー平等・安全な水とトイレの普及・クリーンエネルギー等々、)全17目標と関連した169ターゲットで構成されています。

ここで一つ一つ詳細には触れませんが、2020年(令和2年)を振り返り、世界、日本に目を向けると、このSDGsの達成に向けて動いていたと言えます。(例えば、エコバックの取組、プラスチックゴミの削減、食料廃棄の問題など。)

一方、皮肉にも新型コロナウイルス感染症【COVID-19(コビットナインティーン)】が、2019年からあつという間に世界中に広まってしまいました。

日本は、2019年には「平成」から「令和」に。「令和」とは「美しい調和(Beautiful Harmony)」を意味すると英語訳され、日本が新時代を世界にアピールし、2020年(令和2年)には東京オリンピック・パラリンピックが開催される予定でした。しかし、2021年(令和3年)、今年に延期になりました。

持続可能な社会とするためには、直面する新型コロナの収束という大きな課題の克服に世界が動いています。このように今、世界、日本、そしてみなさん一人一人が、変化や改善を求める激動の中にいることを意識してもらいたいです。

では、持続可能な社会とは何か？

社会を人間とし、人にとっての持続可能とは何かを考えると、要は人間が生きることができるように、ということだとわかります。地球環境も含めて人間(生物)が生きていける社会の創造をめざしていることがわかります。つまりは、みんな一人一人がいきいきと生きることができる社会の実現を目指すということです。

この持続可能な社会を目指すことを、今を生きる私たちの使命とし、私たちは、未来を築くためにも懸命に生きなければならないことを自覚したいものです。2030年、みなさんは何歳(いくつ)になっていますか。持続可能な社会づくりの担い手の中心に間違いなくみなさんがいることを意識してください。

人との繋がり、社会との繋がり、国や世界との繋がりの中に自分がいること、そして何ができるかを考え、生きることにつけてくれることを願っています。来たる令和3年度、**「Towards the Future. (未来に向かって!) 全集中、今を生きる！」**をキャッチフレーズに頑張ってください。あわせて、今なおコロナは収束には至ってはいないので、引き続き健康管理をお願いします。これで修了式の言葉とします。